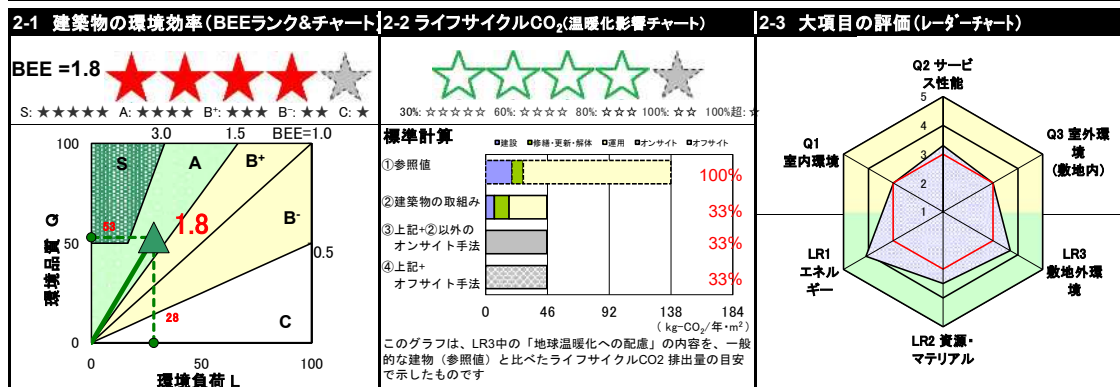
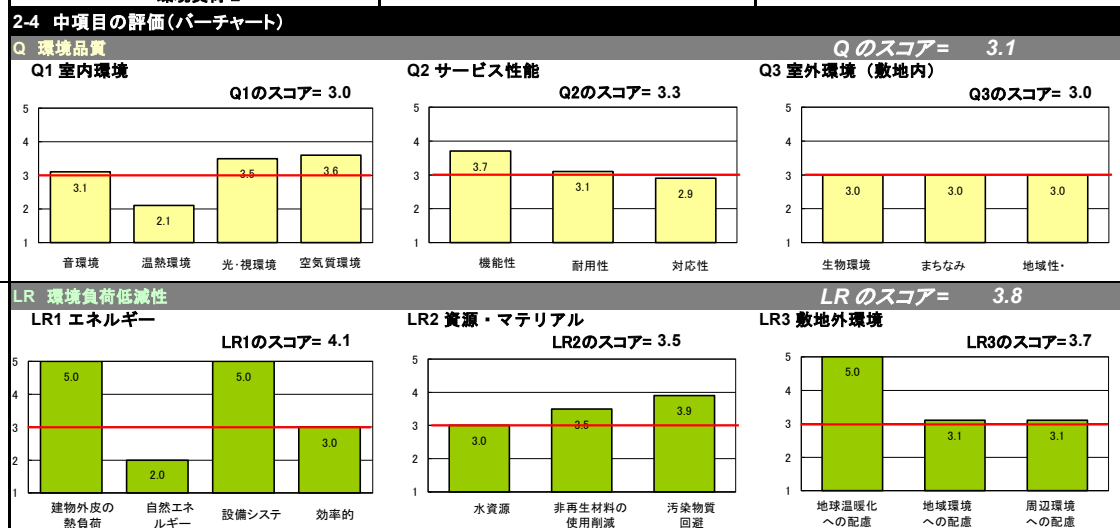


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)三好ヶ丘プロジェクト(女子寮)	階数	地上6階	
建設地	愛知県よし市三好丘四丁目1番1の一部	構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	80 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年9月 予定	評価の実施日	2026年2月2日	
敷地面積	8,405 m ²	作成者	石崎桃花	
建築面積	452 m ²	確認日	2026年2月13日	
延床面積	2,023 m ²	確認者	中村浩二	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
5.0	3.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		47.6 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.2	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)三好ヶ丘プロジェクト(女子寮)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質													3.1
Q1 室内環境						0.40			-				3.0
1 音環境				0.4	3.0	0.15	3.1	3.1	1.00				3.1
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50				
1.2 遮音				0.5	3.0	0.50		3.3	0.50				
1 開口部遮音性能			Dr-50	-	3.0	1.00		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能				-	3.0	-		4.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20				
1.3 吸音				-	3.0	-		3.0	-				
2 温熱環境				0.3	2.0	0.35	2.1	2.1	1.00				2.1
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50		3.3	0.50				
1 室温			日本住宅性能評価基準「5-1断熱等性能等級」等級5相当	3.0	3.0	0.63		3.0	0.63				
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38		4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	-		-	-				
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		1.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		1.0	0.30				
3 光・視環境				0.2	2.7	0.25	3.6	3.6	1.00				3.5
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30				
1 昼光率			各寮室は2.0%以上の昼光率を確保	3.0	3.0	0.60		5.0	0.50				
2 方位別開口				-	-	-		3.0	0.30				
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20				
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.30				
1 昼光制御			カーテンと庇を組み合わせて昼光を制御	5.0	2.0	1.00		4.0	1.00				
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	0.25				
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00				3.6
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63				
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を全面的に採用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00				
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38				
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
2 自然換気性能				3.0	3.0	-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
4.3 運用管理				-	-	-		-	-				
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	-		-	-				
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-				
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-				3.3
1 機能性				0.4	3.0	0.40	3.8	3.8	1.00				3.7
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60				
1 広さ・収納性			各住戸にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備	3.0	-	-		1.0	-				
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-				
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	2.0	2.0	0.40				
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	-		3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-		-	-				
3 内装計画				3.0	3.0	1.00		1.0	0.50				
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30		-	-				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-				
2 耐用性・信頼性				0.3	3.1	0.31		-	-				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48		-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.5	0.33		-	-				
1 躯体材料の耐用年数		②	構造躯体劣化対策等級3	-	5.0	0.23		-	-				
2 外壁仕上材の補修必要間隔				-	3.0	0.23		-	-				
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			汚水排水、雑排水に硬質塩化ビニル管採用	-	5.0	0.15		-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23		-	-				
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19		-	-				
1 空調・換気設備		②		3.0	3.0	0.20		-	-				
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20		-	-				
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-				
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-				
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20		-	-				

3 対応性・更新性			0.2	2.8	0.29	3.0	3.0	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.0	3.0	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	2.8	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4を超える	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	2.0	0.17	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.78	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②	パーティクルボード(住戸内造作壁)・インターロッキングブロック(回廊舗装)	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	独自		3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と造作壁、天井材を分離し、容易に分別可能とした	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.9	0.22	-	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象物質を含有しない建材種別4つ以上	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		HFO断熱材を使用	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率33%	-	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	自転車置き場、駐車スペースの確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		広告照明を行っていない	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)三好アヒプロジェクト(女子寮)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19		
③ 敷地内の緑化					3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:47.6%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)三好ヶ丘プロジェクト(女子寮)

計画上の配慮事項	
総合	断熱性を高め、空気環境に配慮する等、室内環境の向上を図っている。
Q1 室内環境	内装の全面的にF☆☆☆☆の建築材料を使用し、さらにホルムアルデヒド以外のVOCも発散量の少ない建材を使用する等、室内の空気環境に配慮した。
Q2 サービス性能	建物全体の階高や住居内の天井高さにゆとりをもたせ、更新性・機能性に配慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界部に植栽や敷地内歩道を設けることで、地域活動やアメニティに配慮するとともに、良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	Low-Eガラスの採用や適切な断熱材により断熱性を高め、建物外皮の熱負荷抑制を図っている。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材、エコマーク商品を積極的に採用し、資源の使用量削減に努めた。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を抑えるようにし、地球温暖化に配慮した。
その他	特になし